2016年（平成28年）1月5日

学長年頭メッセージ

2016年 学校法人上智学院 年頭式典

「大学のグローバル化と上智大学 ～教育・研究・学生支援のさらなる充実を！～」

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、上智大学、上智大学短期大学部、上智社会福祉専門学校及び聖母看護学校の4校を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。2016年が教職員の皆様とご家族、そして、学生とそのご父母、卒業生並びに本学院に関わるすべての皆様にとって幸多き年となりますよう心からお祈りいたします。

昨年は学校教育法の改正に伴い、学内規程の大幅な改定が必要となりましたが、皆様の多大なるご協力によって予定どおり手続きを完了することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。昨年も申し上げましたが、本学には早急に取り組まなければならない課題が山積しています。教職員の皆様と十分に話し合いコンセンサスを取りながら、より迅速に一つ一つの課題に取り組んで行く所存です。

１．「スーパーグローバル大学」と「大学の世界展開力強化事業」

スーパーグローバル大学創成支援事業は、今年で3年目を迎えます。2017年には第1回の中間評価が行われますが、この事業が終了する7年後に達成すべき目標をしっかりと見据えて取り組んでいかねばなりません。目標達成には相当の努力を要する項目もあります。一部の学部や部署ではなく、私たち一人ひとりが事業に関わる当事者であるとの意識をもって事業を進めていくことが求められます。

昨年は、上智大学、上智大学短期大学部と南山大学の3校が手を組み、中南米諸国との交流を促進するための「大学の世界展開力強化事業」に申請し、私立大学プロジェクト2件のうちの1つに採択されました。国内3校と中南米諸国の大学とは、カトリックという共通基盤で結ばれていますが、この事業をきっかけに、中南米諸国との関係をさらに深めていきたいと考えます。

グローバル人材育成を加速するため、昨年4月に全学組織化した「グローバル教育センター」は、留学生の派遣や受入とともに、本学が力を入れているグローバル教養教育の核となり、今後さらに新たなプログラムを整備していきます。

また、学生の語学力向上には、言語教育研究センターが中心となって、語学カリキュラムの充実・発展に取り組んでいます。昨年後半には語学学習アドバイザー制度を導入し、学生の指導に一役買っていますが、今後も、Language Learning Centerの拡充を含め、「語学の上智」の名声をいっそう高めていきたいと思います。

さらに、昨年設立された国際協力人材育成センターは、国連など国際機関でのキャリアを志す学生を指導、支援し、本学が輩出してきた先達に続く人材を育てることを目的としています。グローバル大学としての本学の強みを引き出してゆくために大切な取り組みになるものと期待しています。

多くの大学で導入の進むクォーター制は2018年度から段階的に導入することを目指して検討を進めています。学期の変更はさまざまな部署に影響がありますので、関係会議体と調整しながら教職員一体となって取り組みたいと考えます。

大学院についても、この4月に幾つかの改組を行います。哲学研究科哲学専攻を文学研究科の中に移し、人文系の学問領域の連携強化とより効率的な運営を図ります。外国語学研究科は言語科学研究科に名称変更することで、本学が誇る言語研究をさらに際立たせます。さらには、実践宗教学研究科を新設します。実践宗教学研究科に死生学専攻を配置し、現在社会の新たな課題として取り組むべき「宗教の公共性」、「死生観・生命倫理」および「臨床スピリチュアルケア」の3つを死生学的課題として捉え、これらの分野における研究者や高度職業人の育成を目指します。

２．入試改革

次に国レベルで進んでいる入試改革については、民間の外部試験を積極的に活用することが求められている中で、本学は他大学に先駆け、2015年度一般入試からTEAPを活用した新たな入試制度を導入し、さらに、2017年度一般入試から全学科で4技能のスコアを求めることになりました。

国際バカロレア資格については、今年度の公募制推薦入試から全学部の出願資格に追加しましたが、現在、新たな入試制度の導入も検討しているところです。

また、海外指定校の拡充も進めており、ベトナムにある国連のインターナショナルスクールが新たに加わりました。台湾やタイなど他地域でも、候補となる学校を開拓し、多様な学生を受け入れる態勢を整備していきます。

３．研究力向上、研究倫理教育の推進

本学は、教育にも研究にも力を入れています。それ故に、研究力の向上への取組は、今の上智大学に課せられた大きな課題の一つでもあります。昨今、世界の大学ランキングが非常に注目されています。研究面の指標に左右され、本学も順位を上げることが難しいことは事実ですが、ランキングが海外からの受験生獲得にも大きく影響していることから、このことを意識しながら研究力を向上させていくことも必要と考えます。

その第一歩として、研究者の皆様には、是非、科研費を始めとする外部資金獲得を目指していただきたい。公平・公正な審査による外部資金の獲得は、その研究内容が高く評価されたことに他なりません。ところで、平成27年度科研費の新規研究課題の採択

率において、上智大学は、全国の研究機関の中で第28位にランクインしましたが、これは、本学研究者による研究の質の高さが認められた結果です。

研究資金の面からも、学内研究環境の改善に取り組んでいます。2015年度から、科研費不採択でも一定の評価を得られた研究課題に対して研究費を付与する「科学研究費補助事業インセンティブ研究費」制度や各個研究費の繰越制度を導入しました。2016年度は、大学院生の学会参加費を補助する制度を新設し、若手研究者育成支援の制度を充実させます。

研究倫理教育については、昨年皆様にご協力いただきましたが、研究不正や研究費の不適切使用の防止について、今一度認識を新たにしていきたいと考えます。学生に対しても、早い段階から研究倫理を身につけさせることが重要と考え、2016年度から学生に対する研究倫理教育を始めることにしております。

ここで、特筆すべきこととして、昨年7月に「国際関係研究所」が設立されたことを挙げておきます。国際関係研究所では、国際政治学と安全保障に係る研究を両軸に、国内外の研究機関との連携や、学生への研究成果の還元を積極的に行うことにしています。すでに開催された講演会やワークショップには多くの研究者や学生が集い、活発な交流が行われています。

４．奨学金制度の充実に向けて

ここ数年、外国人留学生を支援する奨学金の拡充に努めてきました。昨年末には海外からの留学生に対して生活費を支援する奨学金を新設し、一人当たり60万円の奨学金を50名に授与しました。また、大学院博士後期課程に在籍し、優秀な研究業績を上げている学生に対する「若手研究者育成奨学金」の制度も新設しました。

留学生支援に関しては、奨学金以外にも国際学生寮の充実が挙げられます。2012年にオープンした祖師谷国際交流会館には、現在、定員に近い約300名の学生が住んでおり、貴重な国際交流の場となっています。

理事会は奨学金の原資として、およそ10億円の基金を積み立てました。現在フィジカル・プラン等検討専門第1委員会を中心に、優秀な学生の確保を目的とした奨学金制度の創設を検討しているところです。

５．キャリア支援・課外活動支援

学生の就職活動については、経済状況が上向きになったことで企業の採用意欲が高まり、本学学生においては、2016年新卒採用は非常に良い状況にあります。また、社会がグローバルに活躍できる素養のある人材を求めており、多くの卒業生がその期待に応えた結果、本学学生に対するニーズはよりいっそう高まっています。

すでにご存知のとおり、今年の採用スケジュールはまた変更され、これから就職活動をする学生は不安を多く抱えているようです。教員の方々には、身近な相談者として学生をサポートしていただくとともに、学生の人間力を高めるために、4年間を通したご指導をお願いします。

学生の課外活動に対する支援もまた必要です。今年は、第57回上南戦が南山大学で、7回目となるSOFEXが韓国ソウルの西江大学においてそれぞれ開催されます。こうしたスポーツ交流、文化交流にも力を注いでいきます。さらに、東北の復興支援ボランティアや福島県飯舘村の学習支援についても、引き続き大学としてバックアップします。

６．短期大学部

上智大学短期大学部は、国内外との様々な連携が進んでいます。連携協定覚書を締結したミクロネシア短期大学との間で昨年始まった交流事業は、今年も双方の学生がお互いの大学を訪問し、様々な交流を行います。また、大学の世界展開力強化事業では、この2月から3月にかけて、上智大学、南山大学と合同で第1回のペルースタディーツアーが行われます。

ところで、短期大学部では昨年、入試広報の一環として、祝日の平常授業を利用し、試験的に高校生向けの授業見学会を行いました。実際に訪れた高校生からは高校と大学の学びの違いがわかったと大変好評であったため、今後、これを本格的に実施することとし、2016年度は年3回の授業見学会の開催とSophia Junior English Festaなどのイベントの公開を予定しています。

７．上智社会福祉専門学校

上智社会福祉専門学校では、教職協働・職員協働イノベーション研究の成果を受け、従来は学生の自主的な参加を基本としていた地域活動や社会福祉関連イベントへの参加の機会を、授業カリキュラムの選択科目とすることの検討に本格的に着手します。

福祉専門職を目指す学生が、地域住民との交流・協働イベントに参加することを「協働型学習プログラム」と位置付けることにより、地域の方々の活動を直接体験できるだけでなく、当事者の視点を理解する効果が期待できると考えます。

８．聖母看護学校

聖母看護学校は、2016年度末で閉校することが決まっており、来年度が最後の年となります。全員が看護師国家試験に合格し、学校として有終の美を飾れるよう、在校生一人ひとりを最後までしっかり指導していきたいと思います。

９．最後に

これまで述べてきたことは、「グランド・レイアウト2.0」に掲げられた計画を実現するために、この2016年に私たちが行おうとしている事柄の一部です。これらの計画を実施するためは、教職員一人ひとりが主体的に行動することが求められます。「グランド・レイアウト2.0」の完成時期である2023年度の理想像を思い描き、それに近づけていくために、教職員の皆様のより一層の貢献を強く希望し、年頭の挨拶といたします。

以　上